

# 2026年度米子高専PBL

(課題発見・解決力養成)

企業メンター募集に関するオンライン説明会

日時：令和8年3月5日(木) 13:00～

米子高専PBL2026年度総括：谷藤尚貴

# PBL総括自己紹介

谷藤 尚貴(たにふじ なおき)

米子高専総合工学科 総合工学科長(2026/4～)

化学・バイオコース長(2025/4～)

2008年米子高専着任

2008～2019年，物質工学創造実習(2年生)担当

2020～2025年，PBL担当

2026年は，PBL総括担当

専門：有機化学，蓄電池材料，化粧品科学，食品科学

# PBL総括自己紹介

< 教育業績の一部紹介 >

**2015年4月：科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞**

「化学生物分野での[アクティブラーニング](#)導入による理解増進」

**2016年3月：小柴昌敏科学教育賞**

「化学・生物系実習における[アクティブラーニング](#)の導入と高度化」

**2016年8月：工学教育賞**

「化学生物分野において[自主性を促す工学教育](#)を推進するための環境整備と[創造的学術活動](#)の実践」

**2020年11月：読売教育賞理科教育部門最優秀賞**

「高専を教育拠点とした10代青少年に対する科学教育の高度化・国際化・[地域活性化](#)」

**2022年4月：科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞**

「工学的手法で[地域活性化活動を発信](#)するものづくり活動の理解増進」

# 本日の内容

1. PBLについて
2. 昨年度からの変更点について
3. メンターへの依頼内容
4. テーマの設定について
5. 授業日程
6. 質疑・応答

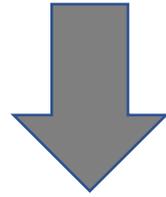
# 本日の内容

## 1. PBLについて

2. 昨年度からの変更点について
3. メンターへの依頼内容
4. テーマの設定について
5. 授業日程
6. 質疑・応答

# 1. PBLについて

**PBL** : **P**roject **B**ased **L**earningの略  
問題（課題）解決型学習



- ・授業の主目的は、自ら問題（課題）を発見して、その問題を解決する能力を身につけるための学習・意思表示・ディスカッション力を経験として身につけていくこと（アクティブラーニングの1つ）。
- ・米子高専では2022年度から必修授業として実施している。
- ・2025年度から企業メンターに参加いただく形式の授業に変更している。

# 本校での実施規模

科目名：PBL I（2年生），PBL II（4年生）

授業時間：90分間（木曜日 14:30～16:00）×15週(回)

受講学生：総合工学科 2 年生 約200名（5コースへの分配前）  
総合工学科 4 年生 約200名（5コースへの分配後）

授業内容：2年生 2～3名と4年生 2～3名の計 5～6名で  
チームを作り（計70チーム），グループワークを行う

チーム：1クラスあたり 7班のチーム，これが **10教室分設置**  
4年生は機械システム，電気電子，情報システム  
化学・バイオ，建築デザインの 各コースの学生を  
混合して編成 ⇒ 専門性の偏りなし

担当教員：10名，各教室にファシリテーターとして1名ずつ配置







# 本日の内容

1. PBLについて
- 2. 昨年度からの変更点について**
3. メンターへの依頼内容
4. テーマの設定について
5. 授業日程
6. 質疑・応答

## 2. 昨年からの改善点

### ①授業の成績

昨年度：**合・否のみで評価**

今年度：**点数化して、秀・優・良・可・不可で評価**

>90 89-80 79-70 69-60 59>

課題点，出席点，態度点(スマホ操作は減点等)

### ②授業時間外にも作業を行い議論の質を高める

準備過程については教員から事前指導を行う

授業前課題を設定→質問・議論の内容の改善を目指す

<留意点>

**メンターからのテーマ内容で差はつかない様にする。**

社会に出るために必要な作業スキル・態度を評価。

→授業開始時に教員側から毎回採点基準は説明していく。

## 2. 昨年からの改善点

「学生が4年の春休み・5年の4-6月に行う就活時に役に立つ」  
活動内容にするよう、目指していく！

< 昨年までのPBL(2022-2024年度) >

教科書等で与えられた課題に取り組むことだけがゴール

< 6年前までに旧学科それぞれで実施していた「創造実習」 >

専門の教養・技能への関心が高まるための演習を実施

→就活面接時の「一番頑張った授業は？」の対応として、自身が考えて提案した経験でこの授業を説明する例が多かった。

< 今年度の取組で目指すもの・こと >

→会社と学校の打合せにおける違いとして「**実社会に向けて成果発表するための課題解決プロセスを学ぶ、決められた時間内で議論をまとめるための計画力・準備力を身につける**」

## 2. 昨年からの改善点 そのための決めごと作り

- ①授業時のスマホ使用は禁止。全員にPCを持参させる。  
→遊ばせない
- ①授業前の下調べ・課題に関する考えをまとめる課題を設定  
→毎回、授業前にパワポシート1枚に資料を準備する。 **課題点**  
昨年：提示された課題をその場で場当たりの議論した  
今年：事前に提示された課題について下調べを行い、提出する課題を教員が設定。その資料で時間内に議論を行う。
- ②毎授業後に学びの内容を簡単なレポート提出させる。 **出席点**  
→次の授業前課題①の取り組みに反映させることが目的
- ③毎回の授業目的を示しスピード感を出す  
→①の準備ができている班は2-3分は早く帰れる様にする。

## 2. 昨年からの改善点 そのための決めごと作り

### 課題点

### ①授業前にテーマに関する考えを下調べしてまとめる課題を設定

20260528 PBL 6 週目課題 課題 1

この教材を既に実行したユーザがいます。教材を再編集すると、成績データの整合性を失う可能性があります。編集する前に[学習履歴を削除](#)してください。  
この教材は「回答の見直しを許可」オプションが有効であるため、問題を追加もしくは変更しても既に実行したユーザの画面には反映されません。

共通オプション	ページ: 複数ページ 種別: レポート 添え字: 1234 ランダム出題: しない 選択肢並べ替え: しない
配点 ?	10 合計点: 10 難易度 B (normal) 出題分野 <input type="text"/> <a href="#">ループリックを編集</a>
課題	課題ファイル ? ファイルの選択 文件が選択されていません 変換方法 <input checked="" type="radio"/> HTML <input type="radio"/> PDF PowerPoint 文件はPDFに変換されます。 最大アップロードファイルサイズ: 300.00 MB
	課題手入力 ? 企業メンターから提示された課題について、あなたがどのような内容で取り組んでいくことができるか、最初の考え方をパワーポイントシート1枚にまとめて提出して下さい。 ※AIだけに頼らず、自分の考えを書き入れてください。
	画像/音声ファイル ? ファイルの選択 文件が選択されていません 最大アップロードファイルサイズ: 300.00 MB ※画像/音声ファイルにMP4/MOV動画(h.264)を登録するとストリーミング再生となります。 その際は元動画はサーバ上には保存されないためご注意ください。
	添付資料ファイル ? ファイルの選択 文件が選択されていません 最大アップロードファイルサイズ: 300.00 MB

保存

### ②毎授業後に学びの内容を簡単なレポート提出させる。 出席点 →①と同じ形式で実施。 全て集計してファイル保存・得点化。

# 本日の内容

1. PBLについて
2. 昨年度からの変更点について
- 3. メンターへの依頼内容**
4. テーマの設定について
5. 授業日程
6. 質疑・応答

# 3. 企業メンターへの依頼内容

① **現地参加（90分／回）** による指導

② 1回目の5/28のみ、

**会社からの説明を実施（企業概要・自社の魅力・学生に考えてほしいテーマ）** する。

※5分厳守，差がつかない様に願います。

※※当日タイマー設定をします。

③ グループワークを通して

**学生の提案への助言・技術的アドバイスを**

実施していただく。



米子高専PBL(課題解決型授業)

企業メンター募集! 募集期間: ~3/13(金)

米子高専の学生と直接交流し、授業を通じて自社の魅力をアピールしませんか?

学生とつながる  
貴重な機会!

授業には2年生と4年生の計400名が参加。直接コミュニケーションをとれるので、企業の魅力をアピールすることができ、学生のニーズなど、生の声を聞くことができます。



R7参加メンターの声

- ・ 自社を知ってもらうよい機会になった。
- ・ 学生の新たな視点や、付度のない意見で色々な気付きを得られた。

学生の提案で  
企業が進化!

PBL授業を通じて学生から提案のあった取り組みを実践されている企業も!

- ・ 企業SNSの運用方法の改善
- ・ 新たな企業CMの作成
- ・ 企業認知度向上のための地元スポーツ大会の開催



応募資格：県内事業者または支援団体  
謝金：49,500円/人(税込)

募集人数：70名(企業・団体に複数名の応募可)

【申込に関するお問い合わせ】

鳥取県商工労働部雇用人材局産業人材課  
電話番号：0857-26-7691  
メール：sangyoujinzai@pref.tottori.lg.jp

【PBL授業に関するお問い合わせ】

米子工業高等専門学校 企画・社会連携係  
電話番号：0859-24-5007  
メール：kikaku@yonago-k.ac.jp

【メンター申込はこちら】



※本事業は鳥取県庁令和8年2月定例会における予算成立を前提に実施される停止条件付の事業です。予算が成立しない場合には、いかなる効力も発生しません。

# 企業メンター参加によるメリット

- ①1回目参加(5/28)時の会社説明により，クラス(40名・2,4年半分ずつ)に企業の認知度が広まる。  
+ 公開に問題ない情報であれば，学生が入っているMicrosoft Teams内の情報共有ファイルとして，参加企業のファイルを置いて，5/28の授業前課題として事前学習させることも検討中。  
※クラス外の学生も会社資料を閲覧する可能性を拡げる



- ②4年生の8・9月に実施するインターンシップ申込みに繋がる  
③毎年12月実施の就職説明会における地元企業ブースを訪問する学生の数が増える

# 本日の内容

1. PBLについて
2. 昨年度からの変更点について
3. メンターへの依頼内容
- 4. テーマの設定について**
5. 授業日程
6. 質疑・応答

# 4. テーマの設定について

< 班の構成：① + ② でコース所属・学年は混成している >

## ① 4年生 2～3名

- ・ 専門科目・実習を1年間経験しているレベル
- ・ 2年生でPBLの作業プロセスを経験済
- ・ 大学1年生よりは専門科目の理解度が高い
- ・ 数学は微積分(微分方程式)・代数幾何は履修済



## ② 2年生 2～3名

- ・ 履修した専門科目：工学基礎・実習：工学基礎実験
- 専門の僅かな部分をかじった程度・興味を持ってもらう程度
- 数学は2年で高校3年生レベルを履修済

## 4. テーマの設定について

- ・基本的に自由です。

- 若い学生の意見・発想が欲しい案件（一般的・専門的）

- 地域活性化に関わる内容

- 派遣するメンターのリーダーシップを養成する内容

専門性の高いテーマの場合，知識を多く持っていない学生に対して企業からのテーマを理解させるプロセスは必須となります。

※次のページにテーマの例を示します。

- ・専門的な課題をテーマとして提案する場合に，競合他社に自社の秘密が漏れる可能性については各社でご注意ください様おねがいします。

※昨年はこのような事例はありませんでした。

# 4. テーマの設定について 今年のテーマの例

「紙」という素材を利用した新製品の開発／不良品(寸法公差外れ品)の、流出を止めるには？／未来の歯ブラシを考える(環境に配慮する)／自分の好きなこと・興味関心 × ○○○○(社会課題)で叶えられるソーシャルビジネスとは？／山陰の高校生や大学生を対象に、会社の認知度をあげて採用に繋がりたい／自社製品として教育機関向け3DCADを開発、販売を行っている(主に中学校の技術家庭科で利用)。／この商品を全国の学校に導入するにはどのような活動が効果的であるか。／企業Youtubeチャンネルの企画：会社の認知度向上・拡大を目的に幅広い世代をターゲットに会社の魅力を発信するYoutube動画を作成したい／SC-20価値向上プロジェクト／米子の好きな景観／企業イメージの刷新について:知名度が低いことが一番の問題。何かしらのPR手段を考える。／ゴムバリを活用した新素材・新用途の提案／エネルギーの地産地消／弊社の企業価値の向上と、持続可能性の両立において必要なことは何か／地域企業に変化を起こす人材の力とは？～「週1副社長プロジェクト」のマーケティング戦略を考える～／Instagramでイベントを盛り上げるデジタル戦略／生成AIを使った新製品開発業務革新／2024年度より新規事業として取り組んでいる「○○」の売り上げを伸ばしたい。どのようなことに取り組めば良いか。／なぜ、地元企業に就職をしないのか。／廃校を利用した新規ビジネスを創出したい／これからの時代に求められる庁舎とは／「100年生きたい」と思える社会にするために、何が出来るか。／住み続けたい県【鳥取】にするには、何が必要だろうか？／機能性包材(デザイン性や保存保管性など)・・・新たな機能開発とトレーの付加価値創造／企業のブランディング・採用広報戦略の企画／「CLT」を使用した商品を考えよう／加工機械に在荷センサ(ワーク有無検知)を追加するときの、センサ種類の選定(光、超音波、磁気等)と設置場所の検討。／オオサンショウウオ捕獲方法の効率化／マグネシウム合金を用いたBtoC商品を開発したい／複合機をいろんな人に使ってもらうための新しい機能を考える／地域とのリレーション強化に向けた『○○アプリ』ダウンロード数の増加に向けた施策／意見を出し合える活発な職場環境づくり／弊社には外国人の社員がたくさんいるのですが、彼らに日本語の勉強ができるようなゲームを考案してください／今以外の方法で温泉を活用して、まちを元気にするにはどうしたらいいでしょう？／「入りたい会社」ってどんな会社？Z世代目線の採用ブランディングを考える／工場の省人化／「歩いてたのしいまちよなご」におけるまちを”歩いてもらう”施策、方法／残業時間を減らすためには。／新しい緊急情報の告知手段を作りたい／テレビコマーシャルを考えている。みなさんの年代が興味を持つCM(15秒)を作りたい構成から作成まで一緒につくりましょう／脱炭素化のための企業の役割／「あとちょっとが遠すぎる！」～最後の配達、どうすればうまくいく？～・地方拠点からのラストワンマイルを配達をどうする

## 4. テーマの設定について

あわせて一部の学生の成果発表を紹介します

- 一般的なテーマ：1件
- 専門性の高いテーマ：1件
- 実際に活動として実現したテーマ：1件
- 優秀発表会に進んだテーマ：1件

をご紹介します

# 4. テーマの設定について

## <石田コーポレーションさまの事例>

広報戦略の策定を学生に実施する指示を出し、キャラクターづくりに取り組んだ。

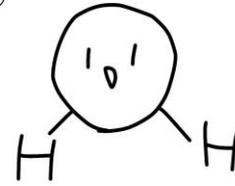
### 社員数の少なさに対する広報戦略の提案

～知名度向上による採用力強化へ～

中小企業の知名度を高め、採用力を強化するための実践的な戦略を発表

### なぜ応募者数が少ないのか？

現在、多くの企業が「人手不足」という課題に直面している。  
特に中小企業ではこの問題が顕著である。  
最大の理由は知名度の低さにあると考える。企業名が認知されていないため、学生や求職者の選択肢に入らないことが採用難の根本にあるのではないだろうか。



### 低コストで効果的な知名度向上戦略



### SNSで企業の「見える化」

SNSを活用することで、企業の魅力を効果的に発信できる。

- ・ X (旧Twitter)、Instagram、YouTubeなどの複数プラットフォーム活用
- ・ 社員の仕事風景、社内イベント、福利厚生などの具体的な紹介
- ・ 「社風に共感したから応募した」という層に直接アプローチ
- ・ 広告費ゼロでもファンがつく仕組みを構築可能



### キャラクターで企業に親しみを

#### 企業イメージの具現化

企業の理念や特色を体現する存在として、親しみやすいイメージを構築できる

#### 高い拡散効果

SNSでもアイコン化しやすく、視認性が高いため拡散効果が期待できる

#### 多目的活用

採用パンフレット、ノベルティグッズ、地域イベントなど様々な場面で活用可能

成功例：くまモン（熊本県）、チーパくん（千葉県）など地域キャラクターの認知度向上効果

### 企業の特徴を活かしたキャラクター案

「石田みずぶんし君」の特徴

- ・ モチーフ：「水」×「つながり」
- ・ しずく型ボディに水流の模様をデザイン
- ・ 両手でつながるのが好きな性格
- ・ 人と人、地域と企業を結ぶ親しみやすい存在

H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>は二酸化水素水



石田みずぶんし君

# 4. テーマの設定について

## <千代エンジニアリングさまの事例>

専門性の高いテーマ。本校専攻科卒OBが丁寧に指導してくれました。

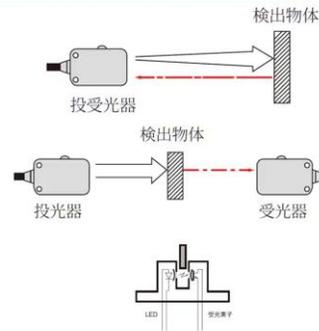
センサーの  
取り付け位置

H2班



### センサの種類

- ・ 光電センサ反射型
- ・ 光電センサ透過型
- ・ マイクロフォトセンサ

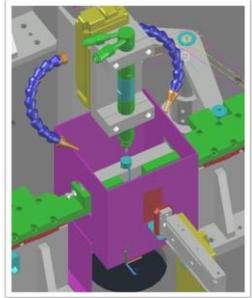


### 課題の要約

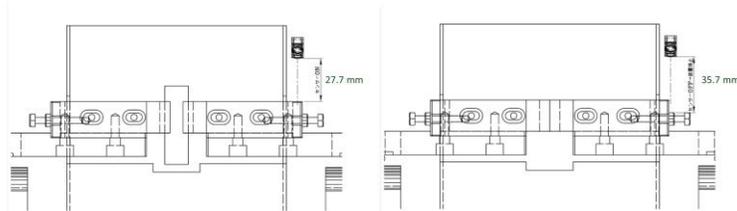
自動で穴を開ける装置に  
センサを付加する



機械が水色の材料をつかめなかつたことを検知して停止させる



### 完成案



チャック**成功**

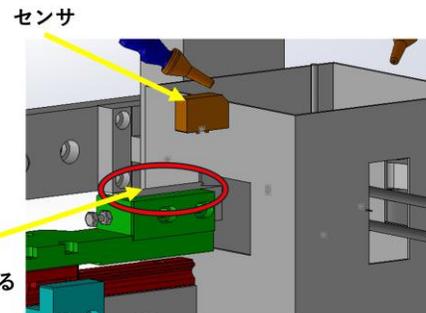
チャック**失敗**

### 完成図

光電センサ(反射型)を  
図のように配置する

チャックが動いている  
間はセンサがチャック  
を検知し続ける

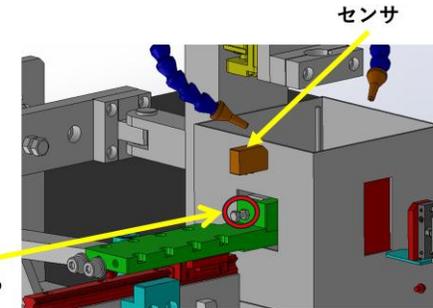
この部分を検知し続ける



### 完成図

チャックが動き、ねじの部  
分で、センサの検知が途切  
れたら機械が止まる

ここで検知が途切れる



# <井木組さまの事例>

顧客宛てに郵送・HP掲載に使用する広報誌にPBLの活動を記事掲載していただいた。

## 内容・ストーリー構成

人物	セリフ	備考
Aさん	それでは第1問！ 100年以上の歴史を持つ地域で一番頼れる会社といえは？	効果音：デデン！
Bさん	井木組！	効果音：ピンポン！（短）
Aさん	地域に根付いた、働きやすさNo.1の会社といえは？	
Bさん	井木組！！  (ピンポンピンポンピンポン！！の効果音とともに画面フェードアウト)  (従業員の作業映像とともにナレーション)	効果音：ピンポン！（長）
ナレーション	この町の人々に“最初に呼ばれる”存在でありたい。 地域の「ファースト・コール・カンパニー」を目指して。	作業風景や従業員の映像（公式HP内PR動画より引用予定）
テロップ	このままと、これからも。  あなたの答えもきっと、「井木組」。(ピンポン！ (?))	

PBL II G1

地域のファーストコールカンパニーを目指す

課題

「井木組」という企業名を学生は知らなかった

解決策

「井木組」という名前を地域の人々に知ってもらう

First Step

企業CMを作成

(企業名が広まることで、業界に興味を持つ人・就職希望の若者へとつながる)

PBL II G1

## 米子高専 課題解決型学習(PBL)に参加しました

米子高専では、学生が自ら課題を発見し、その課題を解決する能力を身に付けることを目的とした課題解決型学習(PBL)を令和4年度より本科2年生・4年生の計約400名が参加する合同授業で行ってきました。

令和7年度からは、より実践的な生きた課題を解決する方策を学ぶことで学生提案の社会実装を進めるとともに、地元企業の理解促進のために鳥取県と連携し、鳥取県内企業にメンター（助言者）として参画いただく取り組みを始め、約400名の学生が10教室に分かれ、さらに教室ごとに7チームに分かれて企業メンターを交えてグループワークを行ってきました。各チームは、企業メンターに提案いただいた課題に対して、それぞれのチームで考えた解決策を発表しました。発表後には投票が行われ、2チームが同点により最優秀賞となり、山口校長から表彰状が授与されました。

なお、最優秀チームの解決課題の概要は以下のとおりです。

- ・G1チーム「若者が興味を持つCMを作りたい」(企業名:株式会社井木組)
- ・H4チーム「職場の外国人に日本語を覚えてもらうにはどうしたらいいの」(米子高専HPより抜粋)



(米子高専HPより)

7/24発表会の様子



**PBL授業の様子**  
弊社は2チームとワークを行い、CMを考えてもらいました。



Q.1 100年以上の歴史を持つ  
地域で一番頼れる会社といえは？



井木組！

## 第1回 石田コーポレーション杯 バドミントン大会要項

- 1 主催・主管 株式会社石田コーポレーション
- 2 期 日 令和7年12月28日(日) 午前9時15分開会式 午前9時30分競技開始
- 4 会 場 境港市民体育館 〒684-0041 鳥取県境港市中野町1900・
- 5 種別・種目 男女別個人戦ダブルス
- 6 競技 規則 令和7年度(公財)日本バドミントン協会競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程による。
- 7 競技 方法 レベル別でのリーグ戦(参加人数によっては、リーグトーナメント戦とする)
- 8 使用器具 (1) (公財)日本バドミントン協会検定・審査合格用器具を使用する。  
(2) 大会使用球は、令和7年度(公財)日本バドミントン協会検定合格水鳥球とし、参加選手は、試合の都度持ち寄りとする。
- 9 参加 資格 高校生、高専生、大学生、社会人であること。(学生優先とする)
- 10 組 合 せ 自己申告でのレベルを加味し、主催者が行う。

石田コーポレーションの新卒採用を増やすために

メンバー  
4年 前田孝太郎、藪莊一郎、村上夏美  
2年 山本一華、若松育智子

出されたお題とは？

それは…

**新卒採用の母集団を形成したい!!**

そこで我々が提案するのは

**石田コーポレーションによるバドミントン大会の主催!!**



# 2025/6/21 日本海新聞

(17) 広 域 2025年(令和7年)6月21日 土曜日 日本海新聞 (第1種郵便物認可)

ふるさとワイド

とっとり東中部・中海圏

## 鳥取県全域に 新しい取組を 報じていただいた

### メンター 社会人を助言者に

### PBL授業強化 米子高専



メンター(手前右)と意見を交わす学生ら

米子市  
米子高専(米子市彦名町) 身につける「課題発見・解決」

### 企業の悩み、学生が解決策

決断教育(PBL)の強化を配置。メンターは各業  
 化に乗り出した。地元企業界や企業の悩みを課題とし  
 て働く社会人を助言者(メンター)として提示した。精密機械部品  
 (メンター)として迎え、業界製作を手がける企業は、脱  
 や仕事上の課題を授業のテーマとして提示してもらい、建設  
 案する。社会の実際の課題を解決するための手段を問  
 を知り主体的な学びを高めかけた。

学生らは、課題解決に向  
 近に感じてもらい、卒業後の進路選択に生かしてもら  
 う狙いもある。

同校では、学生に幅広い視野を身に付けてもらう  
 と2022年度にPBL教育を開始。これまでは教員  
 が課題を示し、学年や専門分野が異なる学生がグル  
 プワークを通して学びを深めていたが、本年度から  
 外メンターを迎えることにした。学生はメンターから  
 助言を受け、高専生ならではの発想で解決策を探る。

5月26日に初回の授業があり、49の企業、団体からメンター50人が集まった。2、4年の計約400人が複数の班に分かれ、メンター

企業側は、表現可能なアイデアが出れば事業に取り入れる。ソフトウェア開発のイグリップ(本社・鳥根県出雲市)の杉山智一さんは「社会課題の答えは一つではない。すぐに表現できなくても、考えることは必ずどこかの場面で生きてくる」と学生の活躍に期待した。(足立篤史)

2025/8/27 日本海新聞

海 新 聞

(第3種郵便物認可)

# 企業の課題 学生が解決策

## 米子高専・PBL教育

### CM制作やゲーム考案

米子高専(米子市彦名町)は、地元企業で働く社会人を助言者(メンター)として迎え、企業が抱える課題に対する解決策を学生が提案する「課題発見・解決型学習(PBL)」に取り組んでいる。学校側は学生の主体的な学びを充実させるとともに、県内企業を知るきっかけとして将来の進路選択につなげてもらいたいと期待する。(武居紀子)

同校は課題発見力や解を高めようと、本年度か決力、協調性の養成を自ら企業との連携に踏み出した。3年前からPBL教育を実践してきた。これ 本年度の学習には2、までは地域活性化をテーマに4年の学生計約400人マに取り組んでいたが、と、企業・団体から50人より具体的な課題をテーマがメンターとして参加。マにすることで学びの質 複数の班に分かれた学生



企業から与えられた課題の解決策を発表する学生たち。7月24日、米子市彦名町の米子高専

### 主体的学び、進路選択のきっかけ期待

はメンターから業界や企業の悩みを提示され、解決策を考えた。

7月24日の発表会では、選ばれた10班が解決策を提案。若い世代が興味を持つCMを作りたいという建築業の井木組(琴浦町)の課題に取り

組んだ班と、東亜ソフトウェア(米子市)から外国人社員向けの日本語上達ゲームを考案してほしいとの課題が与えられた班が最優秀賞に輝いた。

井木組の課題に取り組んだ中村歩夢さん(18)は「メンバー皆が井木組の名を知らなかったのですが、まずは企業名を浸透させようと考えてCMを制作した。社員と直接関わることで企業と働くことへの理解が深まった」と話した。

学校側もより実践的な方向への展開を期待する。同校の田中大輔総務課長は「各班が企業や業界についてしっかりと分析して、これまで以上に解決策が具体的だった。課題を改善しながら来年度も引き続き実施したい」と語る。

最終回の  
優秀者発表会  
の様子も  
報じられた

# 準備スケジュール

- ～ 3月13日(金) 参加企業募集
- 4月2週目 参加企業向けガイダンスを実施
- ～ 4月18日(土) テーマ(3つ程度お願いします)×切  
メンター担当者決定×切
- ～ 5月中旬 企業と担当教員でテーマ等の調整  
各クラスへのメンター割り当て
- 5月下旬～ メンター・学生とのワーク開始

# 本日の内容

1. PBLについて
2. 昨年度からの変更点について
3. メンターへの依頼内容
4. テーマの設定について
- 5. 授業日程**
6. 質疑・応答

# 5. 授業日程

< 授業回数 >

→ 全部で **15回**

< 社会人メンター参加 >

→ 5/28以降の **4回** 参加

→ **9回分のワーク** の指導

→ 今回から参加回数制限無

< 成果発表会 >

→ 3回実施

1) クラスごと, 2) クラス

1位の選抜者発表, **3) 70**

**班全体のポスター発表**

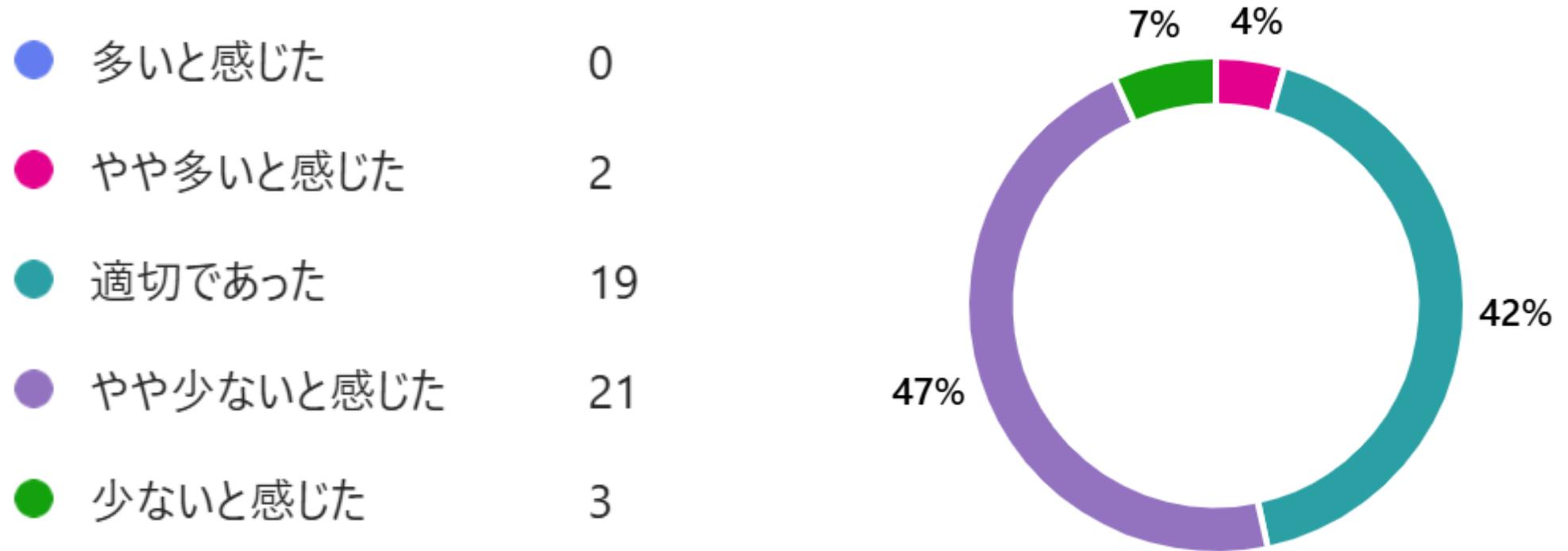
令和8年度 PBL I・PBL II 予定表 (案)						
週	月	日	曜日	時限	内容 (予定)	
1	4	9	木	7	授業ガイダンス, 班分け	各教室
				8	アイスブレイク (ギャップの王様)	
2	4	16	木	7	怖い先生	
				8	無人島	
3	4	23	木	7	告白 (LINEの告白はアリ? ナシ?)	
				8	人生相談 (幼児のお昼にファーストフードはアリ? ナシ?)	
4	4	30	木	7	様々なダイエット法を紹介する	
				8		
5	5	14	木	7	様々なダイエット法を紹介する	
				8		
6	5	28	木	7	グループワーク (企業連携課題)	企業メンター参加
				8	企業の事業等の説明・企業側から学生へテーマの提示	
7	6	4	木	7	グループワーク (企業連携課題)	※
				8	現状分析・課題発見・ヒアリング事項整理	
8					レポート課題 (中間試験時間代替措置)	
9	6	19	金	7	グループワーク (企業連携課題)	企業メンター参加
				8	課題発見報告・企業メンターへのヒアリング・課題設定	
10	6	25	木	7	グループワーク (企業連携課題)	※
				8	要因の分析・解決策	
11	7	9	木	7	グループワーク (企業連携課題)	企業メンター参加
				8	解決策報告・企業メンターの助言	
12	7	16	木	7	グループワーク (企業連携課題)	※
				8	発表資料作成	
13	7	23	木	7	グループワーク (企業連携課題)	企業メンター参加
				8	成果発表質疑・講評【グループ内発表】	
14	7	30	木	7	グループワーク (企業連携課題)	※
				8	グループ1位の10組が発表【オンライン発表】	
15	9	24	木	7	グループワーク	※
				8	成果発表【ポスター発表】	
※企業メンターの参加は自由とします						

後半の  
メンター来校  
に向けた  
準備期間

この回も  
来校指導  
OK

※指導量に  
差がつかない  
様に教員  
が調整する

2025年度実施アンケート：企業メンターによる課題解決ワークにおいて、指導量（10回中の4回に参加して指導）は適切でしたか？



■ 『適切』：42%

■ 『やや少ない, 少ない』 54% → **あと1回くらいは増やしてもよいかもしれない**

# 5. 授業日程 メンターの来る後半日程

6	5	28	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 企業の事業等の説明・企業側から学生へテーマの提示	企業メンター 参加
7	6	4	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 現状分析・課題発見・ヒアリング事項整理	※
8					レポート課題（中間試験時間代替措置）	
9	6	19	金	7 8	グループワーク（企業連携課題） 課題発見報告・企業メンターへのヒアリング・課題設定	企業メンター 参加
10	6	25	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 要因の分析・解決策	※
11	7	9	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 解決策報告・企業メンターの助言	企業メンター 参加
12	7	16	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 発表資料作成	※
13	7	23	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） 成果発表質疑・講評【グループ内発表】	企業メンター 参加
14	7	30	木	7 8	グループワーク（企業連携課題） グループ1位の10組が発表【オンライン発表】	※
15	9	24	木	7 8	グループワーク 成果発表【ポスター発表】	※
※企業メンターの参加は自由とします						

< 授業参加回数 >

→ 今回から参加回数制限**無**  
**最低4回 + 自由参加の週を3**  
**回設定**。その週の指導のバ  
ランスとりはファシリテー  
ター(教員)が調整する。

< 成果発表会 >

→ 3回実施(2回は自由参加)

- 1) クラスごとで口頭発表
- 2) クラス1位の優秀者発表
- 3) 70班がポスター発表 **New**

# さいごに

2025年度のPBLでは学生が地元企業を知るとともに  
生きた課題で成長する機会を得られましたこと  
心より感謝いたします。

2026年度の本事業への継続・新規参加について  
よろしくお願いいたします。

鳥取県

米子高専



山陰にある企業

## 6. 質疑・応答



# 付-1：事前にいただいた質問への回答

1)開催にあたり前回のPBL教育と異なる点があれば教えていただきたいです。

→[シート9/32](#)～[12/32](#)で説明させていただきました。

2)弊社では、電気電子系の学生をメインに接点を持ちたいと思っておりますが、班の組み分け等は配慮いただけるのでしょうか。

→現状で、機械・電気・電子・化学バイオ・建築の学生に均等に分野に沿った企業を割り当てることができません。そのため、この授業では全学科混成チームに向けてできるテーマ設定をしていただくをお願いしています。※専門性のあるテーマの事例は[シート22/32](#)で説明しています。

3)テーマに対してのグループ割りは、どのような感じでしょうか？(学生の選択制か、運営側が割り当てか？)

→教員側で人材のバランスをふまえて割り当てる予定です。

4)工業系以外にも食品系企業等の参加も可能でしょうか？

→可能です。

5)テーマについてはどのような内容がよろしいでしょうか。昨年、実際にされた内容を可能であれば参考に検討させてもらいたい。

→[シート19/32](#)をご覧ください。

## 付-2：事前にいただいた質問への回答

6) 14回目のオンライン発表は今年度と同様、高専の各教室をつないでのオンラインということでしょうか？

→昨年と同じです。

※昨年度、直接企業にオンラインできると勘違いしていた企業があった。

原則発表会は校内限定で情報発信する方針ですので、来校して聴講をしていただく必要があります。

※将来的には完全に公開授業にする予定です。

7) テーマ設定について、3つ提出いただくとのことですが、難易度別に3つなのか、単に別テーマで3つなのかなどのようなテーマ募集の形式を考えられるかご教示ください。

→いずれでも良いですが、別テーマであっても、難易度の差（上・中・下）はおおよそつけてくれると教員側で最適化・最終調整がしやすいと思います。

※テーマ設定で悩まれている企業の方がいましたら、谷藤または分野の近い教員が直接打合せをする等の対応をさせていただきます。